

CCBA®合格体験記

SCSK 株式会社 CSK カンパニー 金融事業本部
青松 彰

2011年11月26日のCCBA®試験に合格することができました。今後受験される方の参考になればと、私の体験を述べさせていただきます。

1. 受験のきっかけ

私はIT企業であるSCSK(株) (2011年9月までは(株)CSK) で20数年間、金融機関のシステム開発に携わってきました。

直近の2、3年は、顧客企業である信託銀行様を担当し、基幹システムに関する大規模な再構築の検討チームの一員として従事していました。そこでは、そもそもシステムの再構築は必要なのか、その理由は、範囲は、手順は、費用はと、長期間に渡り検討や議論、資料作成を繰り返していました。ところがいくら資料にまとめても、なかなか上まで通りません。様々な立場の関係者がそれぞれの観点で検討内容に異議を唱えるという状況で、すっかり行き詰っていました。そこで、もしかすると、あらゆる利害関係者に納得してもらうには、検討の方法や資料のまとめ方、調整のやり方に、何らかの方法論があるのではないかと思い立ち、調査したところBABOK®に行き当たったのです。

BABOK®を学びたいと考えたとき、CCBA®日本語試験が準備中であることが分かり、俄然、挑戦意欲が湧きました。これまでにプロジェクトマネジメントの分野ではPMP、PMS、情報処理試験(PM) と資格を取得しており、次のステップアップ目標として最適だと思えたからです。

2. 受験までの準備

(1) 情報収集と目標設定 (2011年5~6月)

CCBA®試験についての日本語で書かれた情報は非常に乏しく、専らIIBA®日本支部のWebサイトに頼り、特に「CCBA®ハンドブック」については熟読しました。まずハードルとなりそうな受験要件として、ビジネスアナリシス業務への従事経験が一定時間必要という点がありました。それもプロジェクトやシステム開発の期間は除くため、どうやら上位資格であるCBAP®の要件には届かないものと思えました。またCCBA®の初めての日本語試験が2011年11月に実施されることも、英語に自信がない私には重要でした。

そこでCCBA®取得に目標を定め、自社内の個人目標として、上期中に受験要件を満たして、下期中に合格することを明記して自分を追い込みました。

(2) 受験要件のクリア (2011年6~7月)

「業務経験要件」については、過去7年の経歴の大半がプロジェクトマネジメントで占めているため思いのほか苦戦しましたが、プロジェクトの超上流フェーズである、「予備検討」、「構想」、「システム化計画」などでの実業務の期間を積み重ねることで3,750時間を何とかクリアできました。ただし、経験したタスクを細分化してBABOK®ガイドの知識エリアにマッピングする必要があり、BABOK®への理解が浅い時期にこの作業をするのは困難を極めました。7月にIIBA®日本支部開催の「CBAP&CCBA 説明会」を受け、これにより何とか解決できました。

「専門能力開発要件」については、(株)アイ・ティ・イノベーション様が提供する「BA育成コース」を3日分受講することでクリア。手っ取り早く認定教育プロバイダのコースを選択することが最良の手段でしょう。

「推薦状要件」については、当時の直属の上司と、前年度までの上司に依頼しました。ポイントは英語でのメール授受。推薦者に予め、英語のメールを覚悟していただくこと、推薦人の立場（上司である旨）を間違いなく選択して回答してもらえるように依頼し、クリア。これも前述の「CBAP&CCBA 説明会」での解説が参考になりました。

(3) 出願 (2011年7月)

要件を満たし、いざ7月末に出願。支払はクレジットカードが使えるため問題なし。心配は「業務経験要件」で登録したタスクが、全てBABOK®ガイドに沿ったものを間違いなく選択したかどうかにかぎります。

出願よりちょうど1週間で「CCBA® Application Assessment Results」のメールが届き、受験資格の取得まで達成。

次に受験料の支払。クレジットカードが使えず、初めて使うPayPalにて送金。この時点での心配は定員オーバーでしたが、後から聞けば予定していた50名を超えて69名が受験に臨んだとのことでした。

受験票代わりの「CCBA® Admission Letter」が届いたのは11月8日と、受験2週間前よりは早目でした。

(4) 受験対策 (2011年10~11月)

6~7月にかけて前述の「BA育成コース」を受講していましたが、これはビジネスアナリシス業務の実践的なノウハウを取得するためのカリキュラムであり、BABOK®ガイド自体の解説はなく、ましてやCCBA®試験対策を目的としたものでもありません。

その後、一向に計画的な対策が進まない中、本格的に試験対策に取り組んだのは、11月に入ってからでした。(有)KB マネジメント様の提供する研修「CCBA®試験対策コー

ス」を受講する機会を得、そこからギアを切り替えることができました。このコースのありがたかったことは、豊富な模擬問題が得られたこと。受講前に事前学習として宿題が出て、研修中に宿題の答え合わせと解説。さらにオリジナルテキストによる講義と演習を実施。研修の最後には、本番と同等の150問3.5時間の模擬試験が体験できました。

研修から受験日までは18日と極めて短く、集中して対策を実施しました。基本的には模擬問題に取り組み、疑問点をBABOK®ガイドより読み解くことを繰り返しました。また、知識エリアの関連図を頭に叩き込み、最終的には7つの知識エリアと全38タスクを何も見ずに暗唱できるまでになり、さらにタスク間の主要な依存関係を列挙できるようになりました。

3. 受験当日

(1) 試験開始まで

当日は受付を済ませ、控え室に荷物を置いて受験会場へ。会場へ持ち込めるのは「CCBA® Admission Letter」のプリントアウトと身分証明書のみ。腕時計や財布も机には置けないため、両側の窓枠などに財布が並んでいるのは異様な光景でした。また、ティッシュペーパーも机の上に置けないため、困っている方もありました。鉛筆と消しゴムは持参することになっていましたが、今回は持ち込めず、会場で全員に同じものが配布されました。

(2) 受験中の戦略

最初から決めていたのですが、試験時間の開始と同時に、問題用紙の空きスペースを利用して、知識エリアの関連図を書き上げました。設問によってはタスク間の関連が分かるだけで解けるものも多いので、その場合に頭の中であれこれ考えるよりも、自分で書いた関連図を見ながら解くのが有利だと思います。

また、試験中に、トイレや水分補給のために会場を出ることは許されるため、3.5時間継続して集中するよりは気分転換に席を立つことが必要だと思います。

(3) タイムマネジメント

私の場合は進捗グラフを描いてペース配分を管理しました。横軸に経過時間を、縦軸に解答問題数をプロットし、10~15分ごとに何問できたかをグラフ上に記録しました。グラフの右肩上がりの傾きが緩やかにならないように意識することで、ゲーム感覚でペースを保つことができ、結果的に2時間強で完了できました。

また、一問一問丁寧に解答したため、特に見直しは実施しませんでした。

4. 最後に

今回の CCBA®受験の対策を通じて、ビジネスアナリシスの知識を体系的に学ぶことができましたが、実践で活用するにはまだ大きな隔たりがあると思います。今後、実務経験を積む中で、さらに BABOK®への理解を深めるとともに、実務スキルを研鑽したいと思います。

私の受験を応援してくださった多くの方に感謝いたします。

以上